

業務資料 No. 164

昭和 44 年度分

巡回診療報告書

1971 年 3 月

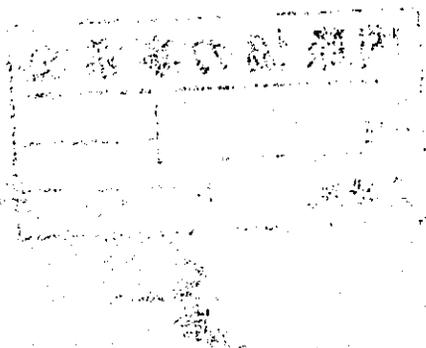
海外移住事業団



EM

国際協力事業団

受入 月日 '84. 4. 11	708
登録No. 03333	98
	EM



700
2.5
K

序

当事業団では、移住者の医療援護施策として、パラグアイ、ボリビア、ブラジル（第2トメアス）等の邦人集団移住地には、直営診療所を設置運営する一方、各奥地に分散している邦人移住者のためには、毎年地元在住医師（主として日系医師）の奉仕的な協力を得て、保健衛生知識の普及を兼ねた巡回診療を実施致しております。これら巡回診療の概要につきましては昭和40年度以来、年度毎に報告書としてとりまとめ参考に供してきましたが、本書はその昭和44年度分で、あらたにパラグアイのアマンバイ地区を加え、合計12大地区、延4,310人の診療概要をまとめたものであります。

ここに巡回診療に対する関係団体及び諸先生方の御協力に対し、深謝する次第であります。

なお本年度の巡回地域は従前のそれにはほぼ同様でありましたので、アマンバイ地区を除き巡回地一般概況の記載は省略いたしました。

海外移住事業団

業務第2部長

JICA LIBRARY

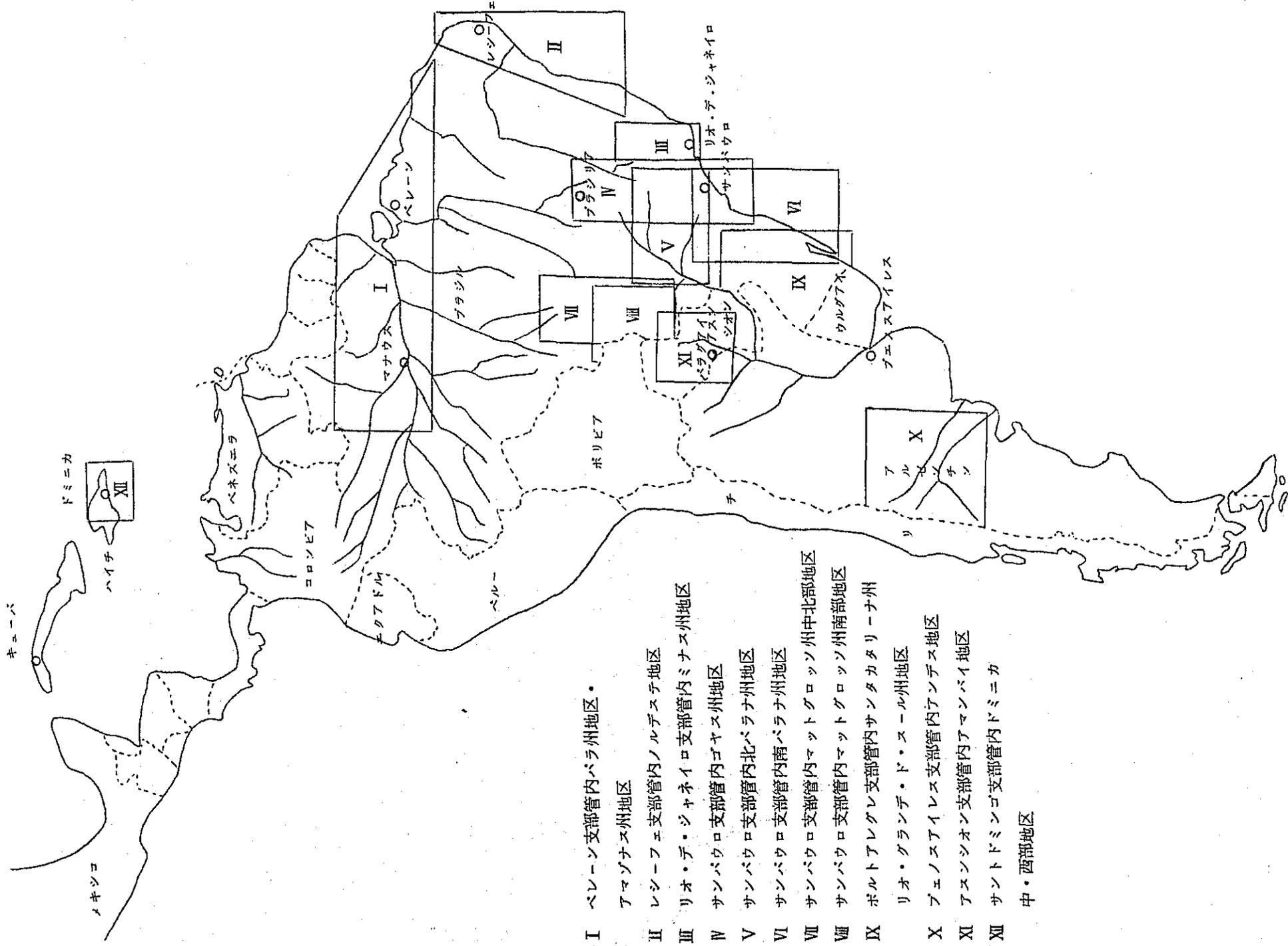


1034754[0]

目 次

A	昭和 44 年度巡回診療実施地区位置図	1~2
B	巡回診療報告書要約	3
I	ベレーン支部管内	3
II	レシーフエ支部管内	13
III	リオ・デ・ジャネイロ支部管内ミナス州地区	19
IV	サンパウロ支部管内ゴヤス州地区	23
V	サンパウロ支部管内北パラナ州地区	29
VI	サンパウロ支部管内南パラナ州地区	35
VII	サンパウロ支部管内マツトグロッソ州中北部地区	41
VIII	サンパウロ支部管内マツトグロッソ州南部地区	47
IX	ポルトアレグレ支部管内サンタカタリーナ州	53
	リオ・グランデ・ド・スール州地区	
X	ブエノスアイレス支部管内アンデス地区	59
XI	アスンシオン支部管内アマンバイ地区	63
XII	サントドミンゴ支部管内ドミニカ・中・西部地区	69

A 昭和44年度巡回診療実施地区位置図

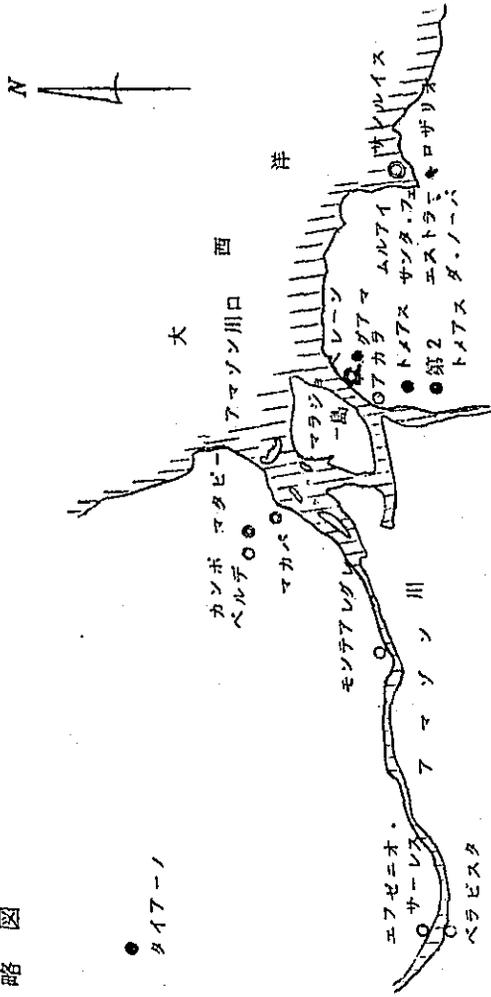


B 巡回診療報告書要約

I ベレーン支部管内

1. 地区略図
2. 巡回日程表
3. 疾病統計
 受診者数
 疾病件数
4. 診療概況

1. 地図略図



● タイアノ

● ボルトベリヨ
● トレーゼ・デ・セテンブロ

○ リオプランコ
● キナリー

チレジーナ

2. 巡 回 日 程 表

月日	巡 回 者 名	出 発 地	診 療 地	宿 泊 地
5. 5	医師 池田幹彦	ベ レ ン	第2トメアス	第2トメアス
6		第2トメアス	第1トメアス	〃
7		〃	—	ベ レ ン
5. 29	医師 池田幹彦	ベ レ ン	第2トメアス	第2トメアス
30		第2トメアス	第1トメアス	第1トメアス
31		第1トメアス	—	ベ レ ン
7. 11	医師 池田幹彦	ベ レ ン	第2トメアス	第2トメアス
12		第2トメアス	第1トメアス	〃
13		〃	第2トメアス	〃
14		〃	—	ベ レ ン
8. 11	医師 伊藤燈男	ベ レ ン	第2トメアス	第2トメアス
12		第2トメアス	第1トメアス	〃
13		〃	—	ベ レ ン
9. 5	医師 伊藤燈男	ベ レ ン	第1トメアス	ベ レ ン
9. 26	医師 池田幹彦	ベ レ ン	—	テレジイナ
27	助手 山内 登	—	テレジイナ	サンルイス

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
9. 28		サンルイス	ロザリオ サンタフェ ムルアイ	サンルイス
9. 29		サンルイス	エストラダノーバ	ベレン
10. 7	医師 池田幹彦	ベレン	第1トメアス	第2トメアス
8		—	第2トメアス	ク
9		トメアス	—	ベレン
10. 11	医師 伊藤澄男	ベレン	アカラ	アカラ
12	助手 及川貞一	—	ク	ク
15		アカラ	—	ベレン
11. 1	医師 伊藤澄男	ベレン	サンタアンナ	マカバ
2	助手 星野アベルト	マカバ	マカバ市内 カルポベルジ マタビー	ク
3		ク	—	ベレン
11. 11	医師 池田幹彦	ベレン	第1トメアス	トメアス
12		—	第2トメアス	ク
13		トメアス	—	ベレン
11. 20	医師 池田幹彦	ベレン	グアマ	ベレン
	助手 星野アルベルト			

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
11. 27	医師 伊藤 澄男	ベレ ン	モンテアレグレ	モンテアレグレ
28	助手 生田 勇二	—	〃	〃
29		モンテアレグレ	サンタレン	サンタレン
30		サンタレン	アレンケール	〃
12. 1		〃	—	ベレ ン
12. 15	医師 伊藤 澄男	ベレ ン	第2トメアス	トメアス
16		トメアス	第1トメアス	ベレ ン
1. 9	医師 池田 幹彦	ベレ ン	ベラピスタ	マナオス
10	助手 為沢 義夫	マナオス	—	ボルトペーリョ
11		ボルト・ペーリョ	Biu Returhn	〃
12		〃	アクレ(キナリ)	リオブランコ
13		リオ・ブランコ	—	マナオス
14		マナオス	エフィゼニオ・サレス	〃
15		〃	マナオス市内	〃
16		マナオス	—	ベレ ン
2. 5	医師 池田 幹彦	ベレ ン	第2トメアス	トメアス
4		トメアス	第1トメアス	ベレ ン
2. 19	医師 池田 幹彦	ベレ ン	アカラ	アカラ
	助手 生田 勇二	—	—	〃

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
		アカラ	—	ベレン
2. 27	医師 池田幹彦	ベレン	マカバ	マカバ
28	助手 星野太郎	マカバ	カンボベルヂ マタビー	ク
3. 1		マカバ	サンタアナ	ベレン
3. 4	医師 伊藤澄男	ベレン	第1トメアス	トメアス
5		—	第2トメアス	ク
6		トメアス	—	ベレン
3. 12	医師 伊藤澄男	ベレン	—	マナオス
13		マナオス	—	ベラピスタ
14		—	ベラピスタ	ク
15		ベラピスタ	エフィゼニオ・ サーレス	マナオス
16		マナオス	ベラピスタ	ク
17		マナオス	マナオス —	ベレン
3. 20	医師 伊藤澄男	ベレン	サンアントニオ	ベレン
	助手 星野アルベルト	—	サンタイザベル	—
3. 21	医師 池田幹彦	ベレン	—	モンテアレグレ
22	助手 アルシノ・ ゴンサルベス	—	モンテアレグレ	ク
23		—	ク	ク

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
3. 24		—	モンテアレグレ	モンテアレグレ
25		モンテアレグレ	—	ベレン
3. 29	医師 伊藤 澄 男 助手 及川 貞 一	ベレン	グアマ	ベレン

3. 疾病統計

<受診者数>

男	429 人
女	560 人
計	989 人

大人	661 人
子供	328 人
計	989 人

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
感 冒	21	心 臓 病	13
下 痢	18	盲 腸 炎	8
寄 生 虫 症	41	胃 潰 瘍	9
マ ラ リ ア	10	気 管 支 炎	3
高 血 圧	51	肺 炎	4
貧 血	44	肺 病	4
胃 炎	15	アレルギ-症	1
胃 腸 病	9	膀 胱 炎	8

疾 病	件 数	疾 病	件 数
関 節 炎	12	ト ラ ホ ー ム	4
扁 桃 腺 炎	24	白 内 障	2
外 傷	6	ノ イ ロ ー ゼ	5
神経痛・リウマチ	30	歯 根 腫	4
月 経 不 順	8	歯 痛	1
更 年 期 障 害	8	農 薬 中 毒	1
卵 管 炎	6	そ の 他	200
丹 毒	16	計	624
麻 疹	13		
皮 膚 炎	15	健 康 診 断	299
咽 頭 炎	10	妊 婦 診 断	64
外・中・内耳炎	9	合 計	987
結 膜 炎	11		

4. 診 療 概 況

アマゾン流域では過去において熱帯風土病マラリア等が恐れられていたが、現在では、マラリア防遏委員会があり、文化協会、産組、事業団、3者の交付金に依り運営され、又連邦直轄の風土病撲滅局が年2回DDT散布を行ない、マラリア防遏に当たっているので今回の巡回ではその実績が顕われ、マラリア患者の数がめっきり減少している。しかし、まだ油断の許せぬ病気であることは言うまでもない。

アマゾナス州地区においては前回の巡回診療時に比較して一般衛生状況、食生活共に数段改善されたように見受けられた。また、マナオス市内居住

者の健康，衛生状況も良好であった。

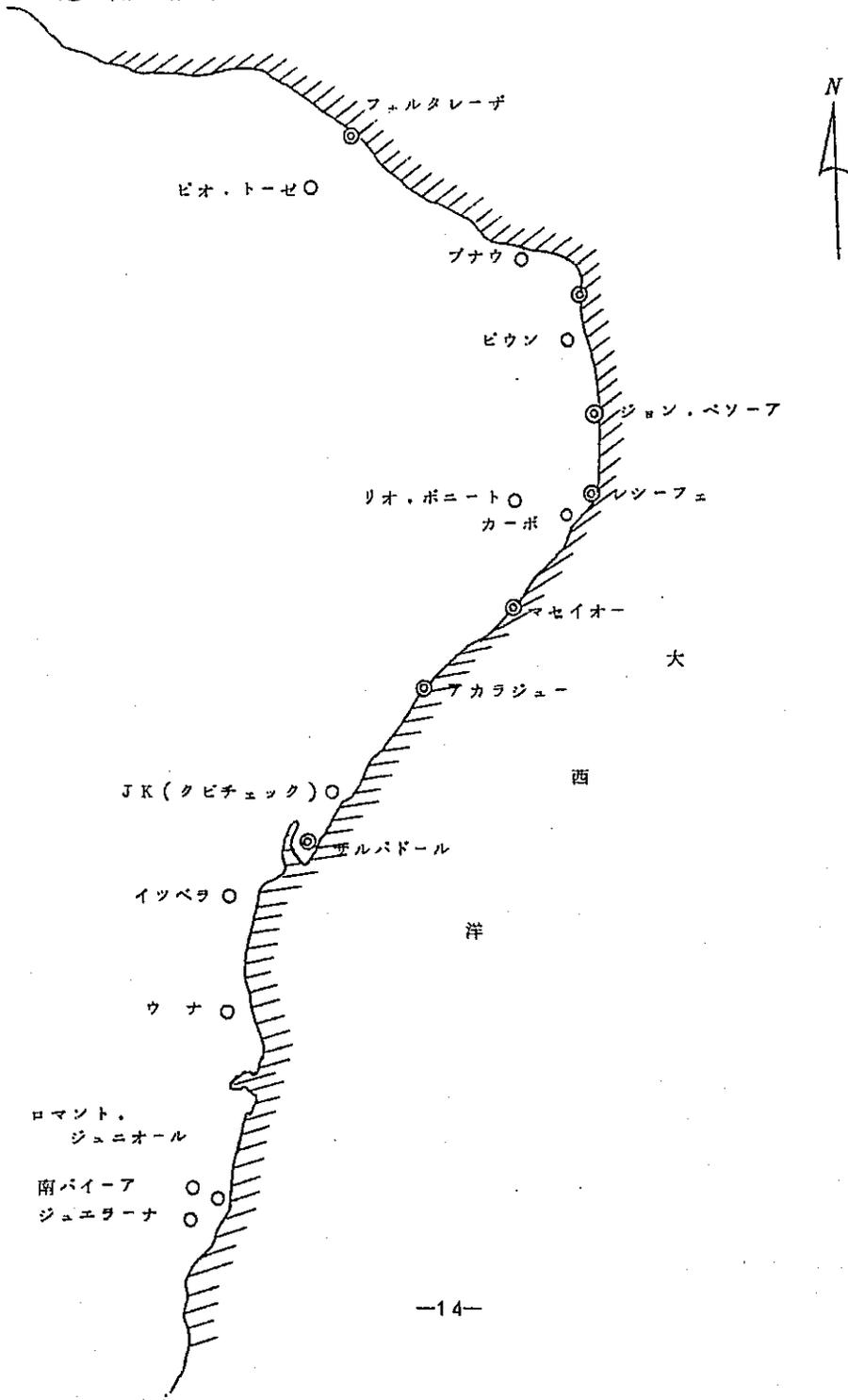
しかし，エフゼニオ・サーレス移住地においては 50 家族以上の入植者がいるにも拘らず 7 名受診したのみだった。

この事は巡回診療に対する関心がうすいと思われるので今後検討する要があろう。

Ⅱ レシーフェ支部管内

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
4. 診 療 概 況

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
昭45 1. 16	DR. GERALDO DE PEREIRA	レシーフエ	ビオ12世	ビオ12世
17	DR. LUIZ DE SOUZA	ビオ12世	—	フォルタレーザ
18	大浜伸三	フォルタレーザ	ピウン	ピウン
19		ピウン	ブナウ	ブナウ
20		ブナウ	—	ナタール
21		ナタール	—	レシーフエ
22		レシーフエ	リオ・ポニート	リオ・ポニート
23		リオ・ポニート	—	レシーフエ
24		レシーフエ	カーボ	〃
25		—	カルビーナ	〃
3. 7		サルバドール	J. K	J. K
8			〃	〃
9			〃	〃
10		J. K	—	サルバドール
11		サルバドール	—	イタブナ
12		イタブナ	ウナ	ウナ
13			〃	〃
14			〃	〃
15		ウナ	—	イツベラ
16			イツベラ	〃
17			〃	〃
18		イツベラ	—	サルバドール

3. 疾病統計

<受診者数>

男	104 人
女	124 人
計	228 人

大人	154 人
子供	74 人
計	228 人

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
感 冒	3	中 耳 炎	1
下 痢	2	結 膜 炎	4
寄 生 虫 症	51	角 膜 炎	3
高 血 圧	3	虫 歯 ・ 歯 石	158
貧 血	13	痔	4
胃 潰 瘍	2	慢 性 胃 カ タ ル	7
ア レ ル ギ ー 症	1	胃 下 垂	3
扁 桃 腺 炎	9	静 脈 硬 化	13
神 經 痛 ・ リ ウ マ チ	20	便 秘	9
静 脈 瘤	4	へ ル ニ ア	4
更 年 期 障 害	1	そ の 他	14
皮 膚 炎	21	合 計	350

4. 診療概況

昭和 44 年度の巡回診療は、管内北部（ピオ 12 世、ピウン、ブナウ、

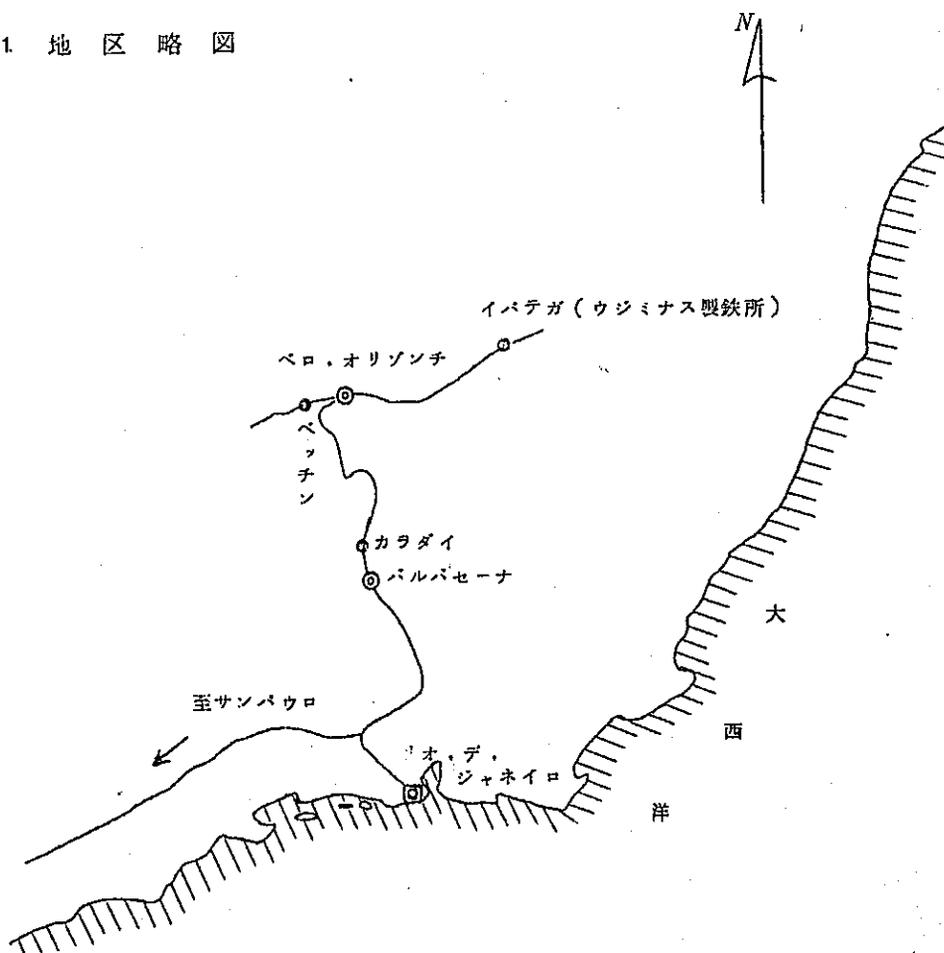
カーボ、リオ・ポニート、カルビーナ、レシーフェ近郊)と南部(JK、
イツベラ・ウナ)に分けて実施。北部は寄生虫の予防と駆除(含熱帯病)
及び口腔衛生、南部は環境衛生に重点を置いて実施した。

特記すべき事としては、歯科治療を要するものが多かったことと、寄生
虫の予防法が徹底されていないことなどであるが、ブナウ移住地において
は前年度に比較して衛生知識の向上がみられた。

Ⅲ リオ・デ・ジャネイロ支部管内ミナス州地区

- 1 地 区 略 図
- 2 巡 回 日 程 表
- 3 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
- 4 診 療 概 況

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
2. 14	医師 高橋 誠	リオ・デ・ジャネイロ	—	バルバセーナ
15	助手 テレーザ・ロン ドリゴ・シルバ	—	バルバセーナ	ク
16		バルバセーナ	カラндаイ	カラндаイ

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
17		カランダイ	ベッテン	ペローオリゾンテ
18		—	◇	◇
19		—	◇	◇

3. 疾病統計

<受診者数>

男	不明
女	不明
計	165人

大人	不明
子供	不明
計	165人

<疾病件数>

疾病	件数	疾病	件数
感冒	3	膀胱炎	2
扁頭痛	2	ヘルニア	2
寄生虫症	3	アレルギー-症	2
高血圧	8	痔	6
貧血	13	筋肉痛	2
胃酸過多	5	扁桃腺炎	8
胃下垂	1	腰痛	5
心臓病	1	神経痛・リウマチ	5
気管支炎	2	月経痛	2
十二指腸潰瘍	2	更年期障害	3

疾 病	件 数	疾 病	件 数
蓄膿症	1	妊婦診断	2
皮膚炎	2	合 計	117
咽頭炎	1		
結膜炎	3		
その他	30		
計	115		

4. 診 療 概 況

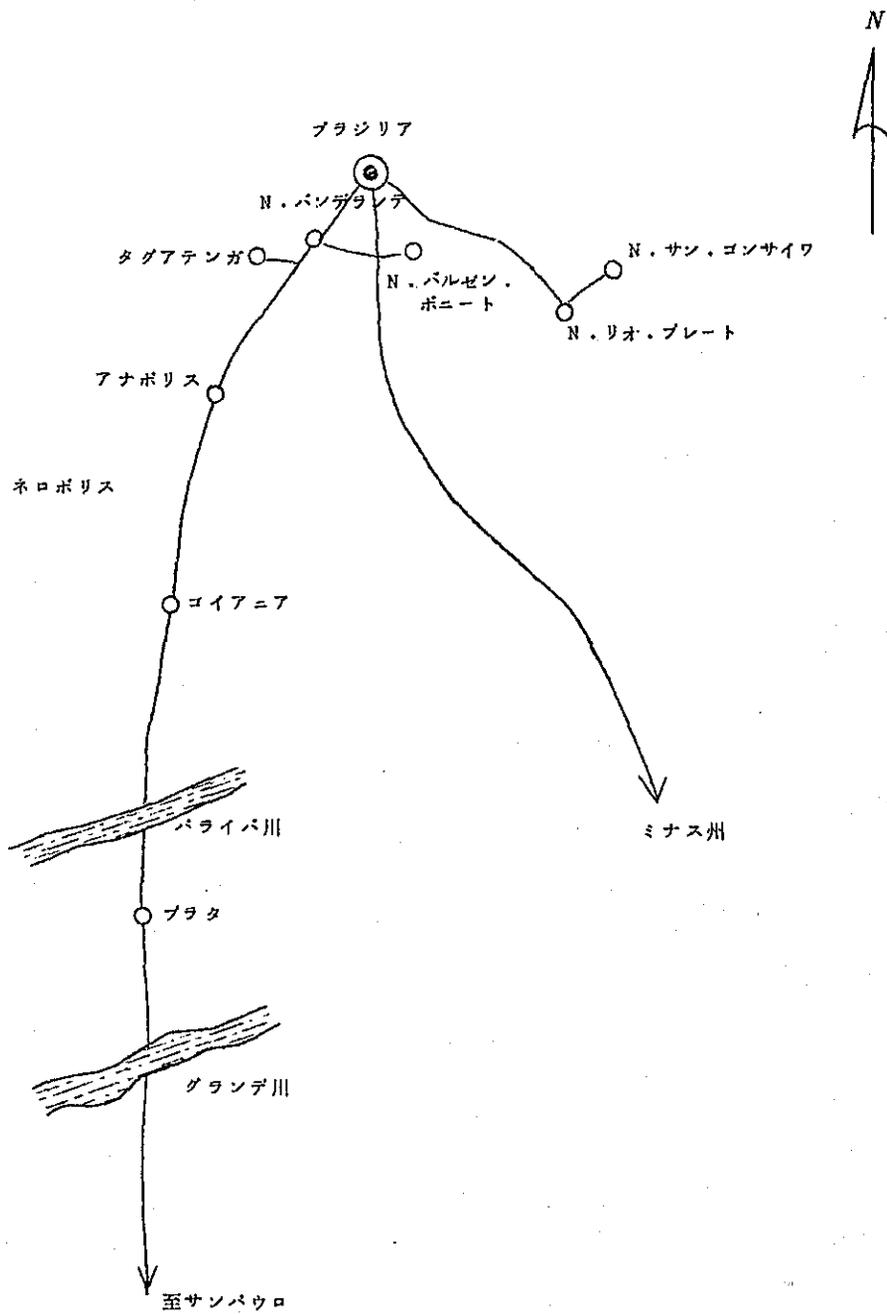
従来、サンパウロ支部を通じ、日本移住者援護協会によって実施されていたが、今回は、リオ・デ・ジャネイロ市在住の日本人二世、高橋誠医師及びテレザ・ロドリゴ・シルバ助手からなる巡回診療班にて、ミナス州BR 3号沿線及びペロ・オリゾンテ近郊等、3地区に於て診療を行った。

巡回に先立ち、当地域の雇用農実態調査を行い巡回診療の通知書を移住者に配布し、連絡がなされていたので、予想をはるかに上廻る受診者数であったし、無医療機関地域も広汎に渡って存在する地域であったので、今回の巡回診療は非常に、有益なものであったと、考察された。

IV サンパウロ支部管内ゴヤス州地区

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
4. 診 療 概 況

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
11. 18	医師 武田 義信	サンパウロ	—	ブラタ
19	助手 後呂 貞明	ブラタ	—	ゴヤニア
20	副手 杉谷 茂一	—	ゴヤニア	〃
21		ゴヤニア	ネロポリス	アナポリス
22		—	アナポリス	〃
23		アナポリス	—	タグアテンガ
24		—	タグアテンガ	〃
25		タグアテンガ	ヌークレオ バンデランテ	〃
26		〃	ヌークレオ バ ルゼンボニート ヌークレオ バンデランテ	〃
27		〃	ヌークレオ リオ・プレート ヌークレオ サ ン・ゴンサイロ	〃
28		〃	—	パラカツ
29		パラカツ	—	コルデスバーグ
30		コルデスバーグ	—	エステイバ
12. 1		エステイバ	サンパウロ	—

3. 疾病統計

<受診者数>

男	177 人
女	174 人
計	351 人

大人	231 人
子供	120 人
計	351 人

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
感 冒	1	中 耳 炎	1
寄 生 虫 症	12	結 膜 炎	1
高 血 圧	19	ノ イ ロ - セ	5
貧 血	43	農 薬 中 毒	22
胃 炎	4	偏 食	60
消 化 不 良	13	酸 毒 症	71
心 臓 病	3	肥 満 症	7
気 管 支 炎	1	低 血 圧	20
肺 炎	5	へ ル ニ ア	2
ア レ ル ギ - 症	4	そ の 他	49
扁 桃 腺 炎	2	計	356
神 経 痛 ・ リ ウ マ チ	2		
更 年 期 障 害	1	妊 婦 診 断	10
皮 膚 病	8	合 計	366

4. 診 療 概 況

今度診療した7ヶ所の内ゴヤニアを除いて、他は1,000mの高原地帯で乾雨期も判然としており気候の変化も温順で健康地帯に属する。他方、連邦政府のゴヤス州政府の熱帯風土病に対する予防処置が徹底し、又邦人農家が農薬を使用するため、伝染病を媒介する昆虫類が漸次減少してゆき、これ等病気は現在殆ど発生しないという。然し、一方所謂現代病新陳代謝病は次第に増加の状態にある。

特に経済的に余裕のある階級はこれ等の疾病に悩まされている。疾病統計表をみるとこの点明らかである。血液系統の病気、消化器系の疾病、その他農薬使用による疾病等である。

これらの病気は農薬中毒以外はすべて食生活の片よりが主因で、それに、生存競争による精神肉体の過労が加わり血液の酸性化を促し人体の新陳代謝機能を害し不健康に追い込んでいる。

この事は、今度の巡回では、すべての診察者にリトマス試験紙を使って唾液の P.H を調べた結果 90% 以上の方が本来アルカリ性であるべき唾液が大なり、小なり酸性反応を示した事により判断し得るのである。

すなわち、健康体の血液は、P.H 7.4-7.5 の間に在り、弱アルカリ性を呈している。だから血液の P.H と唾液の P.H は、ほぼ同程度の弱アルカリ性で唾液の P.H を調べればその人の P.H が大体わかるわけである。

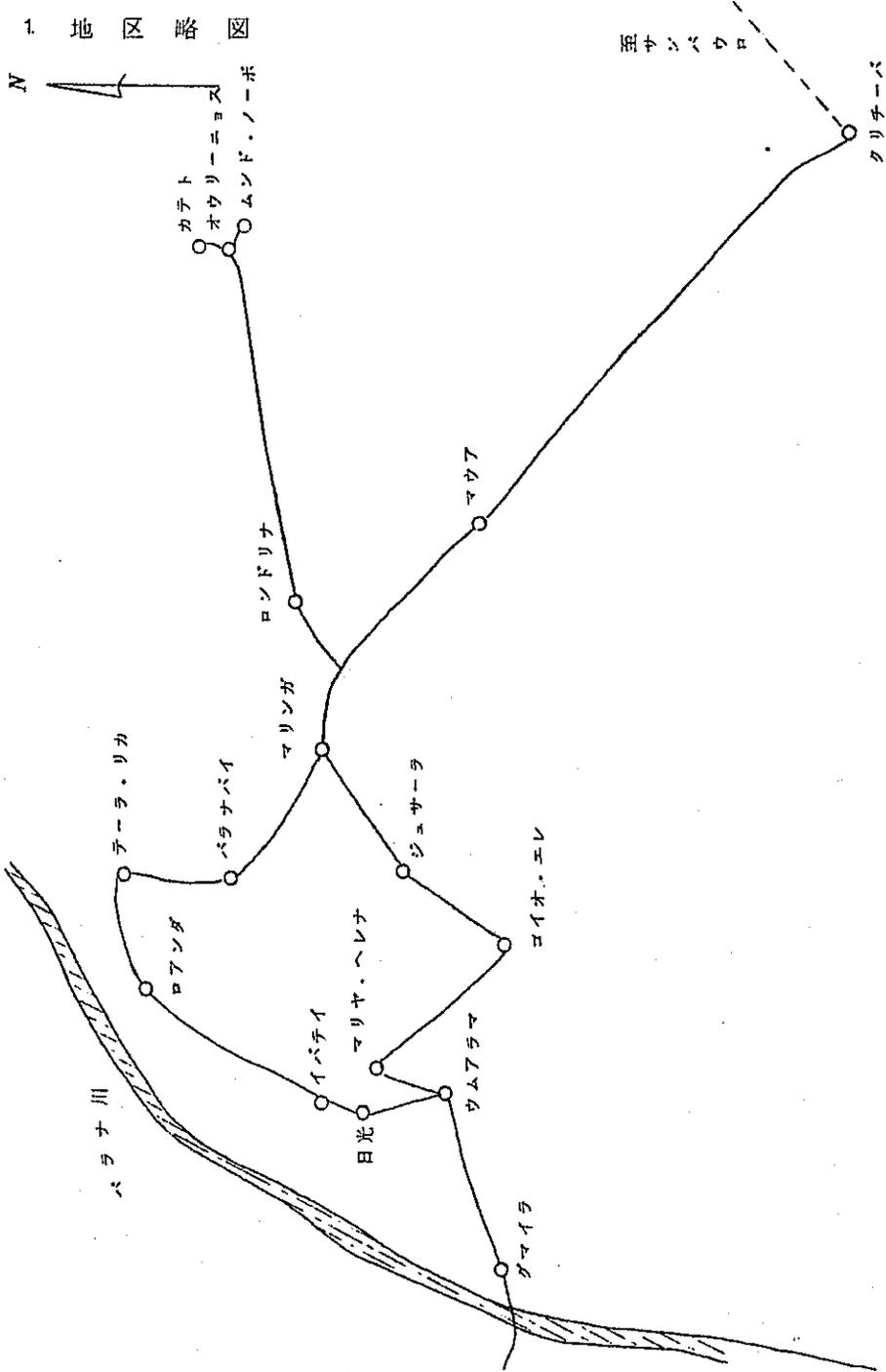
血液の P.H を厳密に調べる方法はヴァンスライク氏法か電気測定器で計る方法があるが、いずれも検査が難しく Laboratorio (検査所) に頼む外ない。

唾液によるリトマス試験紙法によれば簡単に知ることが出来て便利である。一般人がこの事実を知り各自が時々このリトマス紙唾液法を実施して自分の血液の健康状態を知る事は自身の健康管理上必要でもろもろの現代文明病を未然に防ぐ最良のしかも簡単な誰にでも出来る手段であると考え

V サンパウロ支部管内北パラナ州地区

- 1 地 区 略 図
- 2 巡 回 日 程 表
- 3 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
- 4 診 療 概 況

1 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
3. 2	医師 木原 暢	サン・パウロ	ムンド・ノーボ	ムンド・ノーボ
3	〃 古 娘 杏	ムンド・ノーボ	カ テ ト	カ テ ト
4	助手 後 呂 貞 明	カ テ ト	—	バラナヴァイ
5		バラナヴァイ	テ-ラ・リカ	テ-ラ・リカ
6		テ-ラ・リカ	ロ ア ン ダ	ロ ア ン ダ
7		—	ク	ク
8		ロ ア ン ダ	イ バ テ イ	イ バ テ イ
9		イ バ テ イ	日 光	ウムアラマ
10		ウムアラマ	—	グ ァ イ ラ
11		—	グ ァ イ ラ	ク
12		グ ァ イ ラ	—	ウムアラマ
13		—	ウムアラマ	ク
14		ウムアラマ	マリア・エレナ	ゴイオ・エレ
15		—	ゴイオ・エレ	ク
16		ゴイオ・エレ	ク	ジュサーラ
17		ジュサーラ	ジュサーラ	マンダ・グアリ
18		マンダ・グアリ	マ ウ ア	マ ウ ア
19		—	ク	ク
20		マ ウ ア	—	レジストロ
21		レジストロ	サンパウロ近郊	—

3. 疾病統計

<受診者数>

男	466人
女	515人
計	981人

大人	633人
子供	348人
計	981人

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
感 冒	11	動 脈 硬 化 症	25
貧 血	73	動 脈 瘤	12
高 血 圧	59	肥 満 症	10
低 血 圧	23	更 年 期 障 害	17
寄 生 虫 症	98	痔	5
喘 息	4	ア レ ル ギ ー	2
気 管 支 炎	3	神 経 痛	19
肺 炎	3	ノ イ ロ - セ	1
咽 喉 炎	2	ビ タ ミ ン 欠 乏 症	10
胃 炎	9	湿 疹	6
腸 炎	4	皮 膚 炎	5
胃 潰 瘍	2	月 経 不 順	7
消 化 不 良	9	外・内・中耳炎	4
扁桃腺肥大	16	結 膜 炎	7
栄 養 不 良	4	ト ラ コ - マ	1
糖 尿 病	1	白 内 障	2

疾 病	件 数	疾 病	件 数
農 薬 中 毒	25	妊 婦 診 断	22
そ の 他	125	合 計	622

4. 診 療 概 況

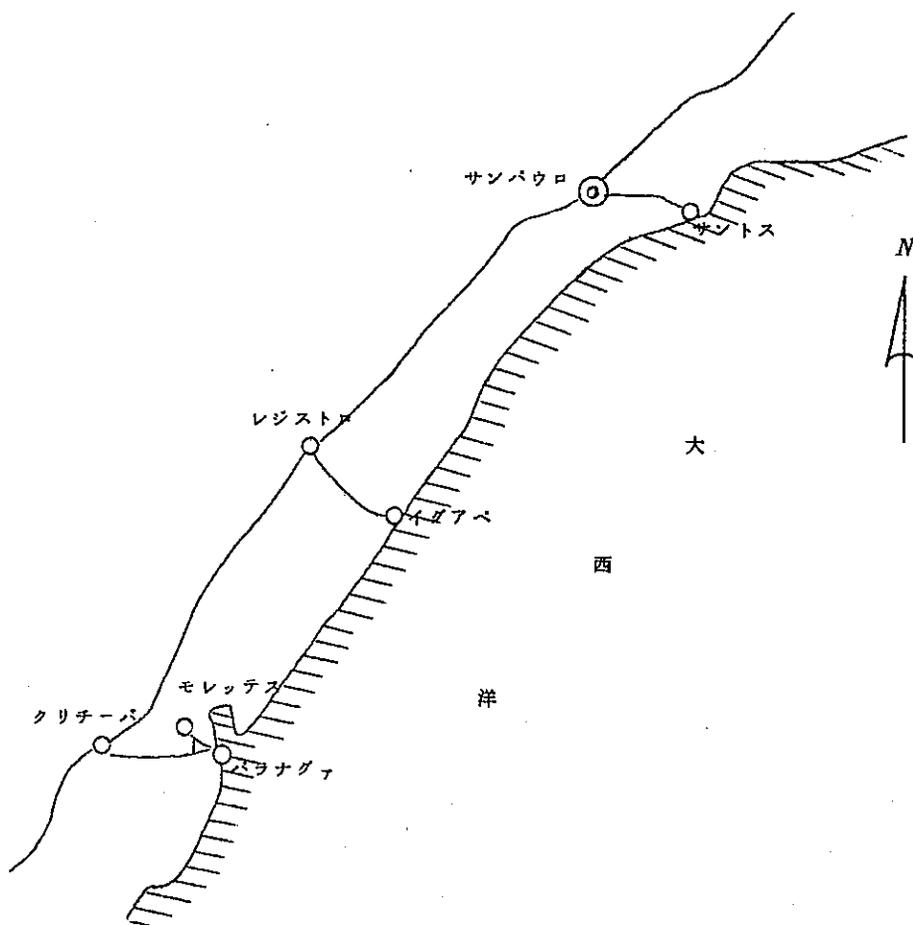
一般環境衛生（精神環境も含む）、予防衛生、生活様式は改善されつつあるように思われるが（a）農薬に対する注意をもっと強調しなければならない（b）寄生虫の駆除にもっと関心をもつべきである。

地方により農薬影響の多い理由は、乾燥がつづき連日炎天続きのような環境の影響、今迄コーヒーが主作であったが霜害による棉作の移行で、消毒薬の使用が甚しく増加している。又、益々強力な農薬を使用するためであろう。

Ⅵ サンパウロ支部管内南パラナ州地区

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
4. 診 療 概 況

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
1. 23	医師 武田 義信	サン・パウロ	イグアベ	イグアベ
24	助手 後呂 貞明	イグアベ	イグアベ レジストロ	レジストロ
25	副手 杉谷 茂一	—	レジストロ	"
26		レジストロ	—	クリチーバ

	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
1. 27		クリチーバ	モレテス	パラナグア
28		—	パラナグア	—
29		パラナグア	パラナグア	レジストロ
30		レジストロ	サンパウロ近郊	—

3. 疾病統計

<受診者数>

男	86人
女	135人
計	221人

大人	158人
子供	63人
計	221人

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
寄生虫症	1	皮膚炎	9
高血圧	8	咽頭炎	5
貧血	39	結膜炎	2
胃炎	11	偏食	35
心臓病	1	低血圧	15
気管支炎	3	酸毒症	26
アレルギー症	5	消化不良	14
扁桃腺炎	6	ヘルニア	1
神経痛	7	農薬中毒	16
更年期障害	2		

疾 病	件 数	疾 病	件 数
そ の 他	57	妊 婦 診 断	4
計	263	合 計	267

4. 診 療 概 況

今回巡回したイグアペーレジストローモレットスーバラナグア地域は何れも海岸地帯で雨量多く夏季はむし暑く、冬期は乾燥期であるが降霜はない。従って年中、腸内寄生虫感染の危険状態にある。農村地帯は未だ野糞の悪習があり、殊に伯人カマラダは便所をもたない故、農村地帯に寄生虫の保有率が高い。保有率が毎年低下していることは事実であるが、便所をもたず素足で歩く間は依然として保有率は減少しない。次に疾病統計表にみられるすべての病気は殆んど全部が血液の濁りが由来するものであるから血の濁らぬ生活を指導することが何より肝要である。

すなわち 1) 心のストレスを除く、2) 食生活の改善、即、アルカリ性食物を多くとり、血液をいつもアルカリの状態にあらしめる、3) 精神的・肉体的過労を避ける。以上の3つの条件をよく認識して実行すれば、血液は常に弱アルカリ即PH 7.4-7.5 の間にあり、各細胞の新陳代謝は完全に行われ、病気に対する抵抗力は最高に達し常に健康を保持することができる。

更に今回の診療で気をついたことは、初診者が非常に多かったことである。原因はこれまで案外健康に無関心であった人々が、予防衛生に対する観念が強まったこと。

これは、衛生講話及衛生フィルムの影響が相俟って力あったと思う。又、他所（従来巡回していない）より転住して来た家族が増加していたことと

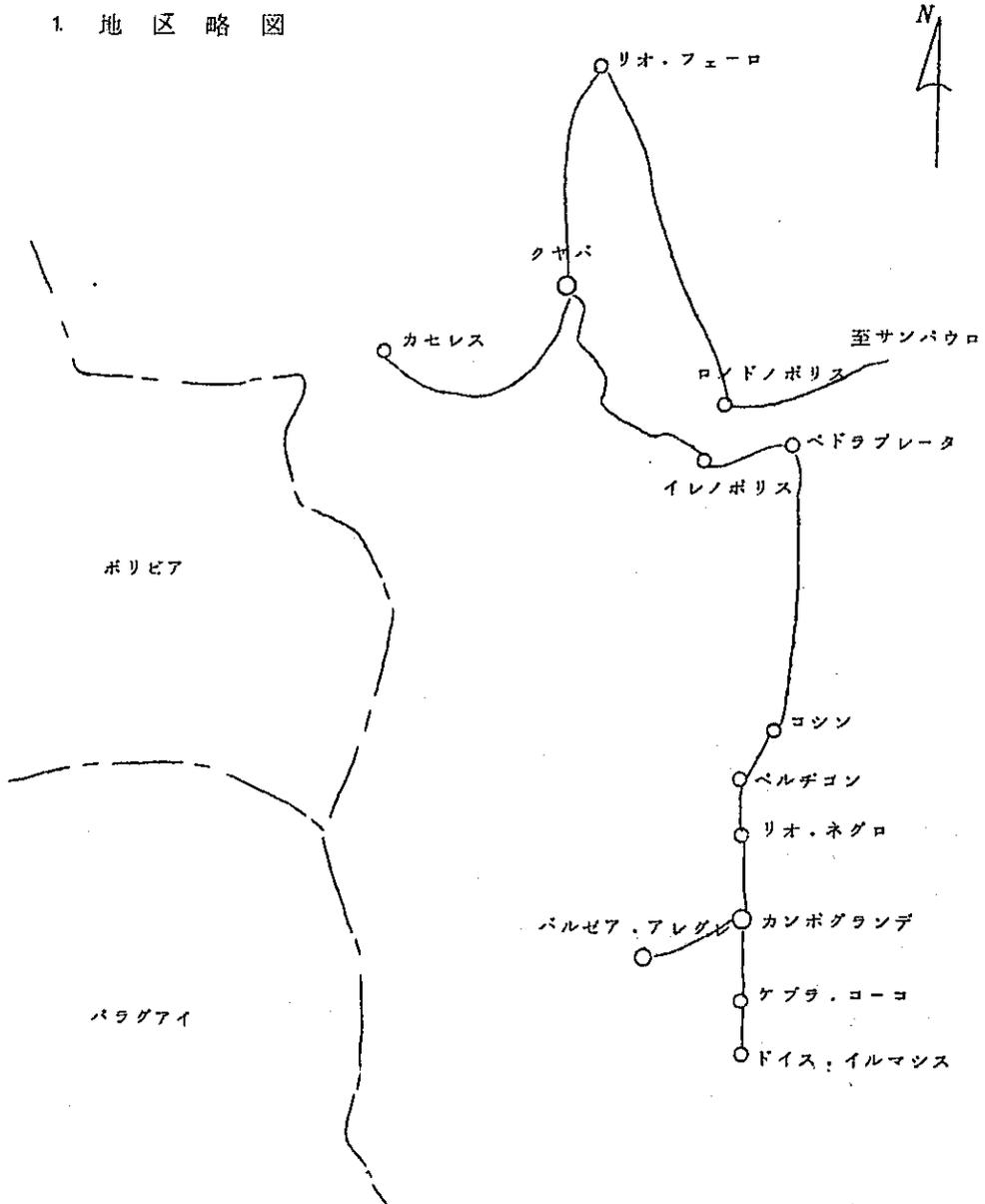
推察するが、参考までに統計表にしてみると下記の通りである。

地 区 名	受 診 数	初 診
イ グ ア ベ	76	51
レ ジ ス ト ロ	89	49
モ レ ッ テ ス	11	8
パ ラ ナ グ ア	45	34
合 計	221	142

Ⅶ サンパウロ支部管内マツトグロソ州中北部

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
4. 診 療 概 況

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
8. 5	医師 木原 暢	サンパウロ	—	タレス・ラゴアス

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
8. 6	医師 今田 求	タレス・ラゴアス	—	コ シ ン
7	助手 後呂 貞明	コ シ ン	—	ロンドノボリス
0		—	ロンドノボリス	ロンドノボリス
9		ロンドノボリス	—	ノ ブ レ ス
10		ノ ブ レ ス	—	リオ・フェーロ
11		—	リオ・フェーロ	リオ・フェーロ
12		リオ・フェーロ	—	ファゼンダ・ アレマオ
13		ファゼンダ・ アレマオ	—	ク イ ア バ
14		—	ク イ ア バ	〃
15		ク イ ア バ	カセレス	カセレス
16		—	〃	〃
17		カセレス	—	ク イ ア バ
18		ク イ ア バ	イレノ・ボリス	イレノボリス
19		イレノボリス	ベドラ・ブレタ	ロンドノボリス
20		ロンドノボリス	—	ベルジグアオ
21		—	ベルジグアオ	リオ・ネグロ
22		—	リオ・ネグロ	リオ・ネグロ
23		リオ・ネグロ	—	カンボグランデ
24		カンボ・グランデ	クェブラ・コーコ	ドイス・ イルマンズ
25		—	ドイスイルマンズ	カンボグランデ
26		カンボ・グランデ	バルゼアアレグレ	〃
27		—	カンボ・グランデ	リ ン ス
28		カンボ・グランデ	—	〃

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
8. 29		リンス	サンパウロ近郊	—

3. 疾病統計

<受診者数>

男	175人	大人	281人
女	247人	子供	141人
計	422人	計	422人

<疾病件数>

疾病	件数	疾病	件数
感冒	7	アレルギー症	3
百日咳	2	扁桃腺炎	4
寄生虫症	19	神経痛・リウマチ	7
マラリア	1	月経不順	1
高血圧	13	更年期障害	2
貧血	11	麻疹	1
胃炎	6	皮膚炎	5
胃腸病	3	外・中・内耳炎	2
心臓病	1	白内障	3
盲腸炎	2	ノイロゼ	1
胃潰瘍	1	農薬中毒	1
低血圧	9	その他	73
肺結核	1	計	179

疾 病	件 数
妊 婦 診 断	13
合 計	192

4. 診 療 概 況

12 邦人集団地を 25 日間で巡回したが、結論を述べれば電灯もない、医師もいない植民地は次の 8 地区であった。

リオ・フェーロ、イレノポリス、ペドラ・プレタ、ベルティゴン、リオ・ネグロ、ケブラ・ココ、ドイス・イルマンズ、バルゼア・アレグレ

12 地区の中、日系医師の開業している所は、ロンドノポリスとカンボグランデの 2 ヶ所、慈善病院に勤務していた医師は（日系）カセレスに 1 名いた。医師不在地区の在住者は医師の定期的巡回を強く要望していた。

毎年巡回し、診療、衛生講話、検便等を行っているため予防衛生観念は著しく向上して、寄生虫の保有率は著しく低下して来た。

この度は、天然痘の種痘を持参し、ロンドノポリス、リオ・フェーロの小児 90 名に種痘し非常に喜ばれた。今後は小児マヒ、ジフテリア、百日咳等のワクチンも持参実施したい。

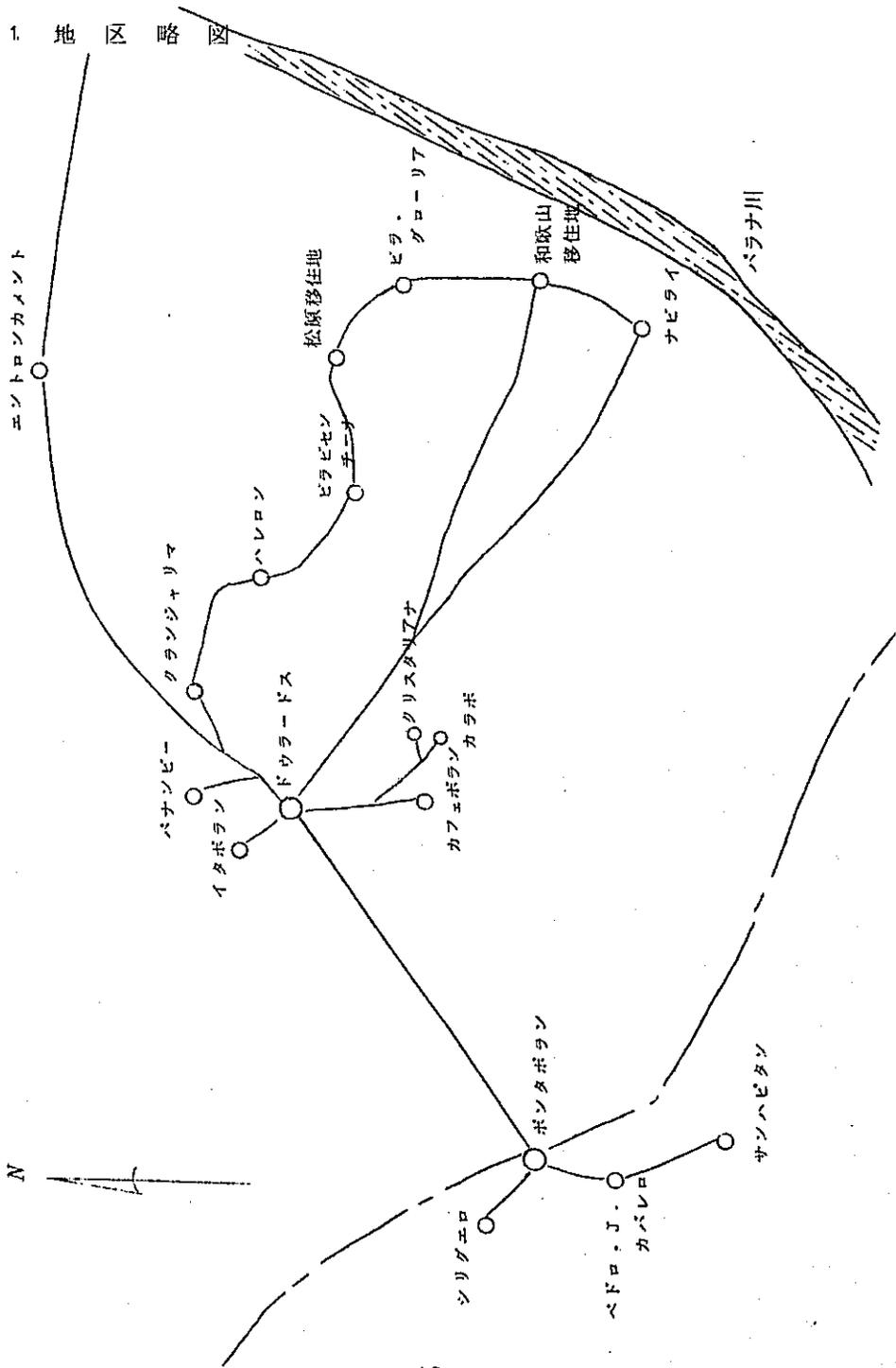
奥地の子供には、非常に歯の悪い者多く、出来れば歯科医も同道し、巡回必要と思う。

巡回は非常に強行軍で植民地内のもっと詳しい衛生状態（井戸 - 便所 - 炊事場 - 食事等）を充分観察することは困難であった。

Ⅷ サンパウロ支部管内マツトグロソ州南部地区

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
4. 診 療 概 況

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
6. 20	医師 武田 義信	サンパウロ	—	ポルト・ エビタシオ
21	助手 後呂 貞明	ポルト・ エビタシオ	—	ボンタポラン
22	助手 杉谷 茂一	} バ国邦人三集団地を診療		
23				
24				
25			—	—
26		ドクラードス	イタポラン	〃
27		〃	カフェポラン	〃
28		〃	クリスタリーナ ・カラボ	〃
29		〃	ナヴィライ	ナヴィライ
30		ナヴィライ	ナヴィライ	和歌山植民地
7. 1		和歌山植民地	和歌山植民地	ヴィラ・グロリア
2		—	ヴィラ・グロリア	松原植民地
3		—	松原植民地	〃
4		松原植民地	ヴィラ・ヴィヤ ンチーナ	ドウラードス
5		休養一車手入れ		〃
6		ドクラードス	バレロン	〃
7		〃	ランゲヤ・リーマ	〃
8		〃	パナンピ	〃
9		〃	—	ラランジャリマ
10		ラランジャリマ	—	帰 聖

3. 疾病統計

<受診者数>

男	91人	大人	164人
女	127人	子供	54人
計	218人	計	218人

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
高 血 圧	21	胃 炎	1
低 血 圧	12	神 経 痛	1
貧 血	57	ノイロゼ	1
偏 食	33	農薬影響	1
消化不良	9	その他	38
炭 毒 症	50	計	271
月 経 不 順	1		
気 管 支 炎	3	妊 婦 診 断	3
皮 膚 病	4		
肥 満 症	12	合 計	274
寄 生 虫 症	15		
感 冒	1		
アレルギ-症	6		
爪病(フンゴ)	2		
扁桃腺肥大	2		
中 耳 炎	1		

4. 診 療 概 況

当地の環境衛生状態は毎年少しづつ改良され、また経済状態も漸次安定しつつあることは喜ばしい。数年前までの巡回では毎度発見されていた熱帯風土病は今回見られなかった。政府も毎年一度は、農村を廻り D D T の撒布をしている。重患者は老衰の老婆 2 名、心臓病の男子老人の外は殆んどなかった。

然し乍ら、一方経済状態の改善につれ、食生活も豊となり、美食、多食、偏食に傾きやすくなり、その他の所謂現代文明病が増加して来ている傾向が見受けられる。これに加うるに生存競争が激しくなり、肉体的、精神的に過労に陥り易く、ために罹病している傾向が強く現われている。

即ち、胃腸疾患や心臓血管系統の疾患や心労から来る血の濁り（酸毒症）に由来する色々の病気が増加し、真に健康体で働いている人が少なくなってきた。加えてビングの飲みすぎのため悪化させている。一方、腸内寄生虫保持者は依然として多数あり、貧血患者の一大原因となっており、他方虫歯や歯質の弱い者は益々増加し寒心の至りである。

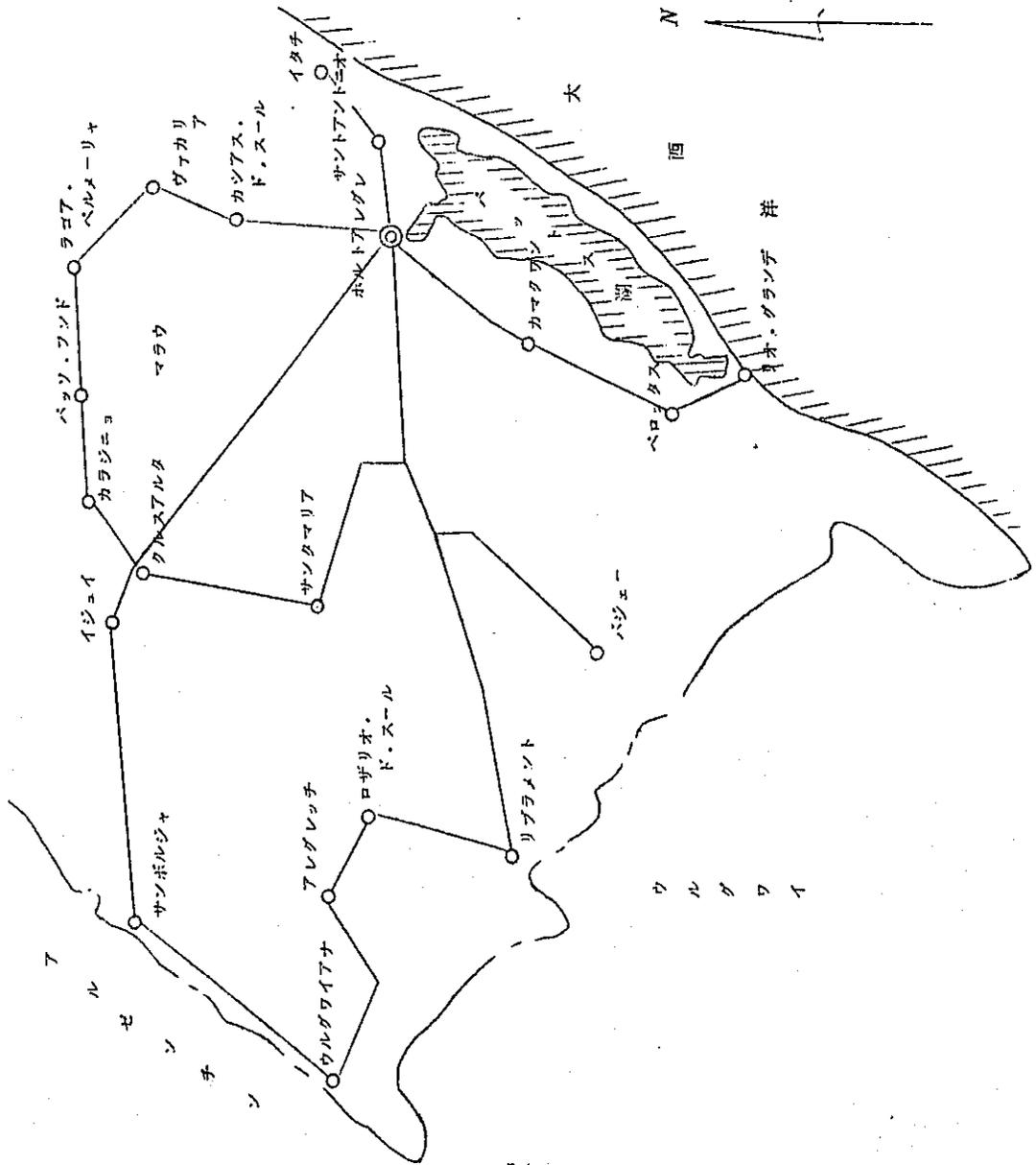
現在文明生活は益々天然自然から遠のいてゆく生活となり、すべての点に於て血液を酸性にし、万病発生の下地を造っている。

眞の健康は常に中性か弱アルカリ性の正常アルカロージスの血液に存在する。

Ⅸ ポルトアレグレ支部管内サンタカタリーナ州・
リオ・グランデ・ド・スール州地区

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
4. 巡 回 地 及 び 診 療 概 況

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
3. 7	医師 森口幸雄 助手 三浦エルアニ リノスタール	ポルト・アレグレ	サントアントニオ イタチ	イタチ
3. 14	医師 森口幸雄 助手 三浦エルアニ リノスタール	ポルト・アレグレ	ペロッタス	ペロッタス
3. 18	医師 ジョルジ長内	ポルト・アレグレ	イジュイ	イジュイ
19	助手 JORGE CANTERGI	イジュイ	サン・ボルジャ	サン・ボルジャ
20	副手 葛山利重	サン・ボルジャ	ウルグワイアナ	ウルグワイアナ
21		ウルグワイアナ リブラメント	アレグレッツィ, ロザリオ・ド・ スール	リブラメント
22		リブラメント	リブラメント	ポルト・アレグレ
3. 21	医師 森口幸雄 助手 三浦エルアニ 副手 LINO STAHL	ポルト・アレグレ	リオ・グランデ	リオ・グランデ
3. 25	医師 長内ジョージ	ポルト・アレグレ	カシアス・ド・ スール, ヴァカリア	ヴァカリア
26	助手 GEORGE CANTERGI	ヴァカリア	ラゴア・ベルメ ーリャ	パッツ・フンド
27	副手 葛山重利	パッツ・フンド	パッツ・フンド カラジニョ	クルス・アルタ

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
3. 28		クルス・アルタ	クルス・アルタ	サンタ・マリア
29		サンタ・マリア	サンタ・マリア	ポルトアレグレ
3. 28	医師 森口幸雄 助手 三浦エルアニ 副手 LINO STAHL	ポルトアレグレ	バジュー	バジュー
3. 30	医師 森口幸雄 助手 三浦エルアニ 副手 LINO STAHL	ポルトアレグレ	バーラ・ド・ リベイロ カマクワン	カマクワン

3. 疾病統計

<受診者数>

男	293 人	大人	275 人
女	241 人	子供	259 人
計	534 人	計	534 人

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
むし歯	45	低血圧	19
扁桃腺炎兼頸部		神経痛・リウマチ	18
リンパ腺肥大	42	湿疹(皮膚病)	18
高血圧	33	農薬中毒	16
寄生虫症	22	胃腸炎	15
ビタミン欠乏症	20	感冒	15

疾 病	件 数	疾 病	件 数
結 膜 炎	11	胃 潰 瘍	3
肝 臓 病	10	アレルギ-性腸炎	2
慢 性 盲 腸 炎	7	中 耳 炎	2
更 年 期 障 害	5	心 臓 肥 大	2
歯 そ う 炎	5	胃 癌	1
関 節 炎	5	子 宮 癌	1
ぜ ん 息	4	肺門リンパ腺炎	2
乳 腺 炎	4		
妊 婦 腎 炎	4	合 計	334
気 管 支 炎	3		

4. 巡回地及び診療概況

各地区の営農状況、医療教育状況については昭和43年度報告書に記載したものと殆んど大差は認められないが、特に農村医療振興対策の長期拡充計画により、すでに初期計画にもられた地区（例えばカンアス・ド・スール、カマクワン、オゾーリオ、バジュー郡等）では、最寄りの病院の設備、サービスがかなり改善されて来ていることが特筆される。

なお、各地区（宿泊地になった郡）では予防衛生講話をスライドを通して実施した。

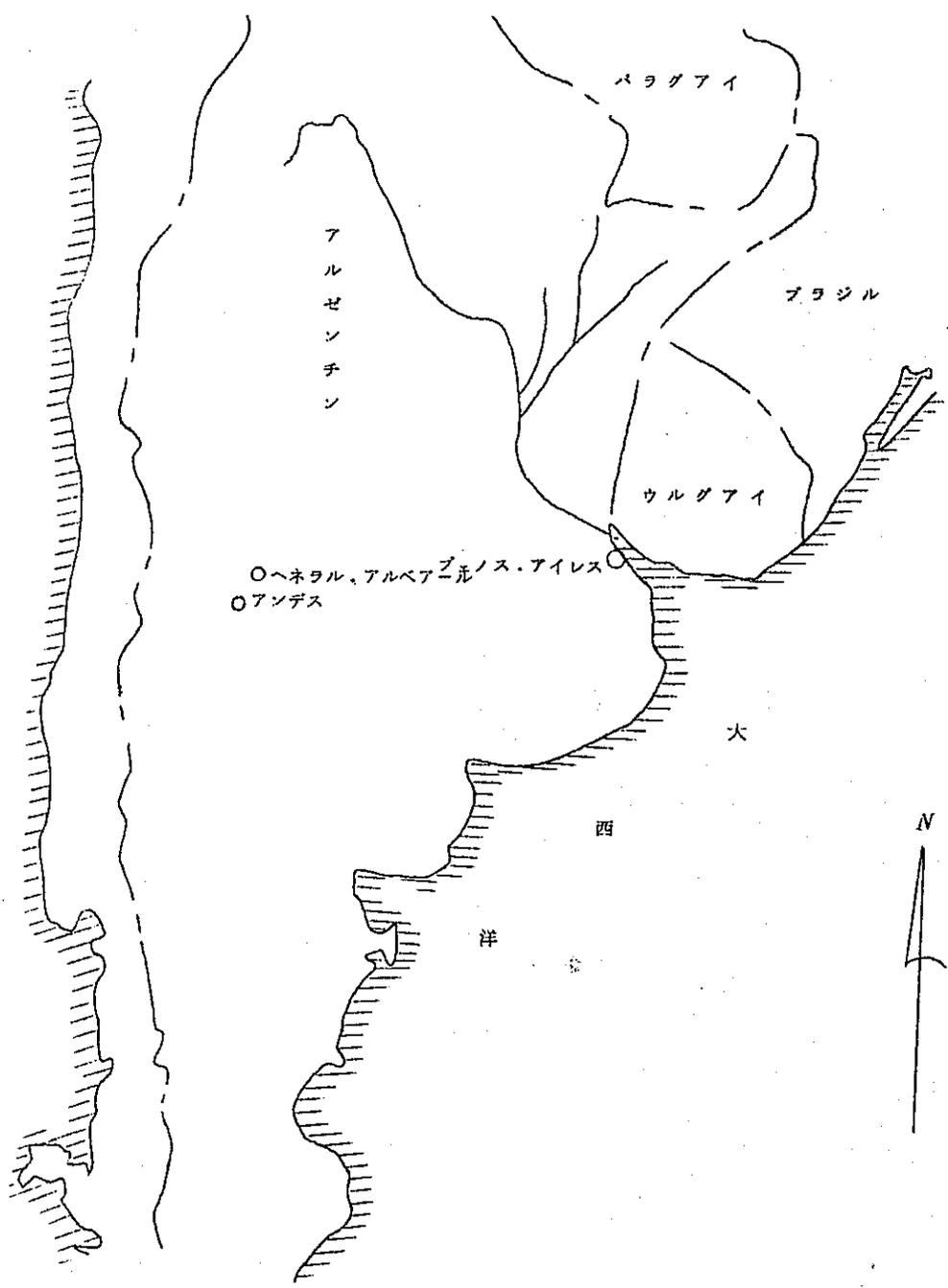
次表は巡回各地区の在住戸数、人員、職業等の一覧表である。

地区名(郡)	在住戸数	同人員	職業別戸数
サント・アントニオ	1 戸	3 人	農業自営 1
イ タ チ	9	44	農業 9 (内自営 7, 借地 2)
ベ ロ ッ タ ス	35	180	農業 25 商業 8, その他 2
イ ジ ュ イ	13	35	農業 11 商業 2
サン・ボルジャ	7	23	農業 6 商業 1
ウルグワイアナ	6	25	農業兼商業 5, 商業 1
アレグレッチ	5	21	農業 4, 商業 1
ロザリオ・ド・スール	1	3	農業 1
リブラメント	7	31	農業 5, 商業 2
リオ・グランデ	11	33	農業 4, 商業 3, 会社員 4
ヴァカリア	4	9	農業 3, その他 1
カシアス・ド・スール	9	39	農業 6, 商業 3
ラゴア・ベルメーリャ	7	35	農業 7 (内自営 1, 借地 6)
パッソ・フンドマラウ	7	24	農業 4, 自動車修理業 2, 商業 1
カラジーニョ	2	14	農業 2 (兄弟家族共同経営)
クルス・アルタ	5	26	農業 3, 商業 2
サンタ・マリア	24	138	農業 12, 商業 12
バジエー	13	74	農業 8, 商業 5
バーラ・ド・リベイロ	1	10	農業 1
カマクワン	5	31	農業 4, 電気修理業 1

X プエノス・アイレス支部管内アンデス地区

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
4. 診 療 概 況

1 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
2. 6	医師 新里フーリオ	ブエノスアイレス	ア ン デ ス	ア ン デ ス
7	古庄マーベル	—	ア ン デ ス	

3. 疾病統計

<受診者数>

男	不明
女	不明
計	57 人

大人	不明
子供	不明
計	57 人

4. 診療概況

一般的に健康状態は良好で子供の栄養状態も良い。年とともに良くなっている。

特記すべきものはないが、一部一移住者にアレルギー性眼疾患がある。これは移住地土壌等の風塵によるものとみられる。また幼児一名は心臓に異常音を認めためたので、アルベアル病院長に連絡し、精密検査を受けるよう措置した。

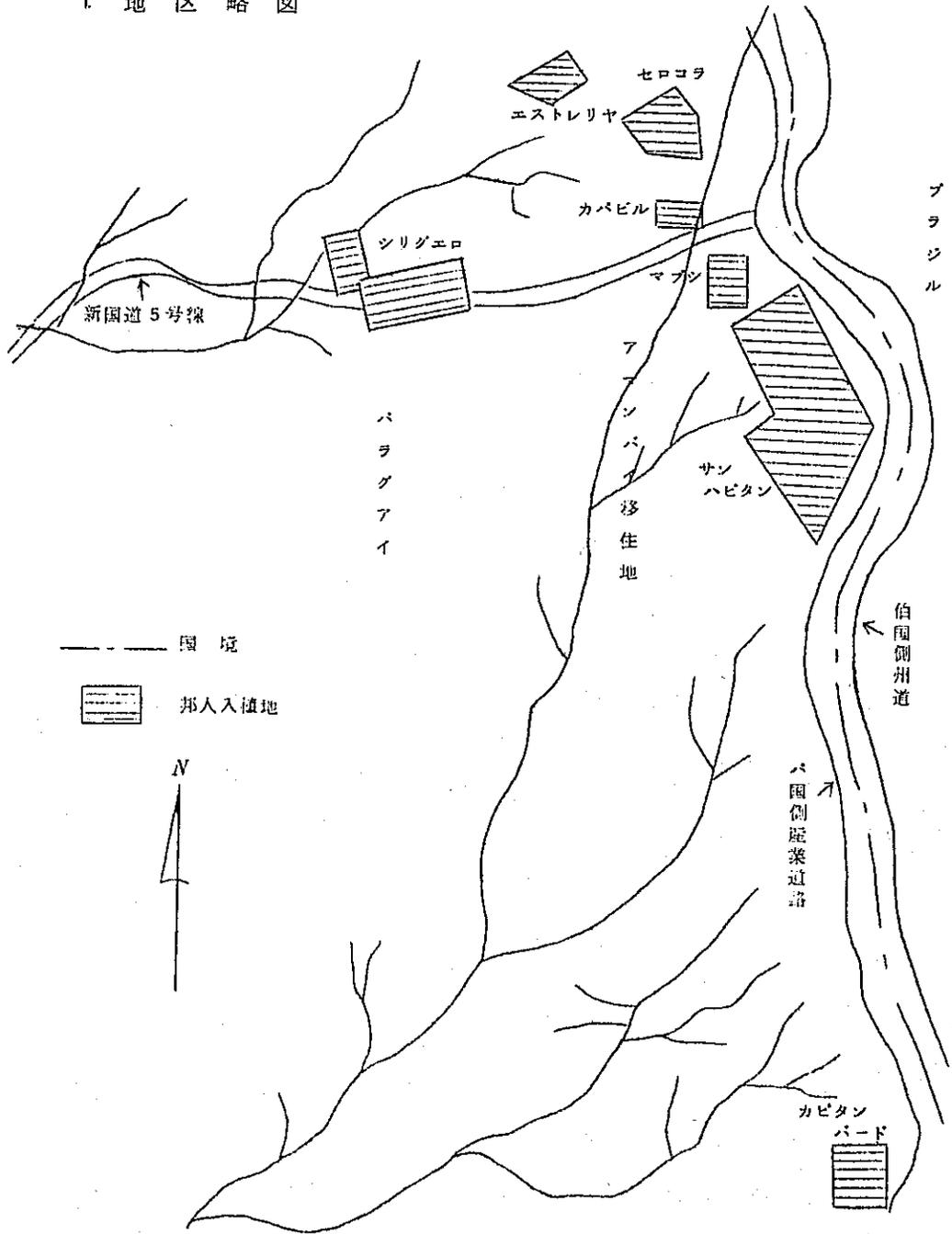
前回まで認められたシャーガス病を伝播するピシチューガ(虫名)の咬傷は1件もなく、移住地の防虫措置は良好と認められる。

牛乳を嫌い幼児がいるが、親の嗜好に影響された場合が多いように思われる。

XI アスンシオン支部管内アマンバイ地区

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
4. 巡 回 地 概 況
5. 診 療 概 況

1 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
4.4. 8.17	医師 新妻 芳夫	アルトバラナ	アマンバイ	アマンバイ
～ 8.27	看護婦 阿部 道子	アマンバイ	—	アルトバラナ

3. 疾病統計

<受診者数>

男	不明	大人	不明
女	不明	子供	不明
計	75 人	計	75 人

4. 巡回地概況

<アマンバイ地区>

サンパウロ市西方 950km, ブラグアイ国アマンバイ県県都ペドロ・ホロン・カブレロを中心に 210 戸 1180 人の邦人が散在している。本地区の邦人の多くはコーヒー栽培を行なっているが降霜の被害が多いため、米・トウモロコシ・小麦等の雑作及び養鶏、養豚に転向した者も多い。

医療施設としては下記の 1) ～ 4) の施設が主として利用されている。

1) セントロ・デ・サル-病院

政府直営病院で日本内地の保健所の仕事もやっている。医師 4 人、レントゲン、ラボラトリオ（検査室）、手術室、分娩室が完備され、別に予防注射室、薬局もあり、3ヶ月から5年迄の乳幼児の予防注射を毎週 2 回定期日に、無料で施行している。人手の関係で巡回注射はやっていない。一般診料費はほとんど無料であるが午前中しか受付けないとか待

たされる等をきらって他の病院（有料）にかかる日本人も多い。

2) 社会保険病院

新築の近代的病院で医師 4 人看護婦 10 人大型ドイツ製レントゲン、検査施設その他を有し、たのもしい病院と思われた。一般人も有料で診療に応じる。入院料 1 日 500 ガラニー。移住者のほとんどは保険有資格者でないので利用してないが、金を払えば診療してもらえるとということがわかれば今後利用者が多くなるものと思われる。

3) Clinica Amambay

カトリック系の私立診療所で前 2 者に比して規模は小さいが貧乏人は治療費を加減してくれるというので割合利用するものが多い。

医師一般医 2 人・麻酔師 1 人、産室、手術室はあるがラボラトリオ（検査室）はない。レントゲン室もないがここで胃腸縫合手術等を受けた日本人も居る。前 2 者を利用する方が望ましい。

4) ディアイノテノ コンスルトリオ

医師 2 名（内科医及外科医）でラボラトリオ（検査室）を持って外来のみ診療し手術を要するものは次の STA・ISABELL で行って居る。医師の能力は相当しっかりしているようである。

5) STA・ISABELL HOSPITAL

個人経営の病院であるが大きな病院で、医師 6 名小児科、外科、産婦人科、内科、麻酔科等夫々の専門家を持ち特に整形外科の設備器械は優秀である。治療部と有料の部と室が別になっていて治療部は無料であるが有料の場合は入院料 1 日 30 コント。虫垂炎に例をとると手術料、入院費を含めて 70 コントから 150 コント位出費せねばならないとのことである。日本人はほとんど利用していないが今後利用すべき病院と思う。

5. 診 療 概 況

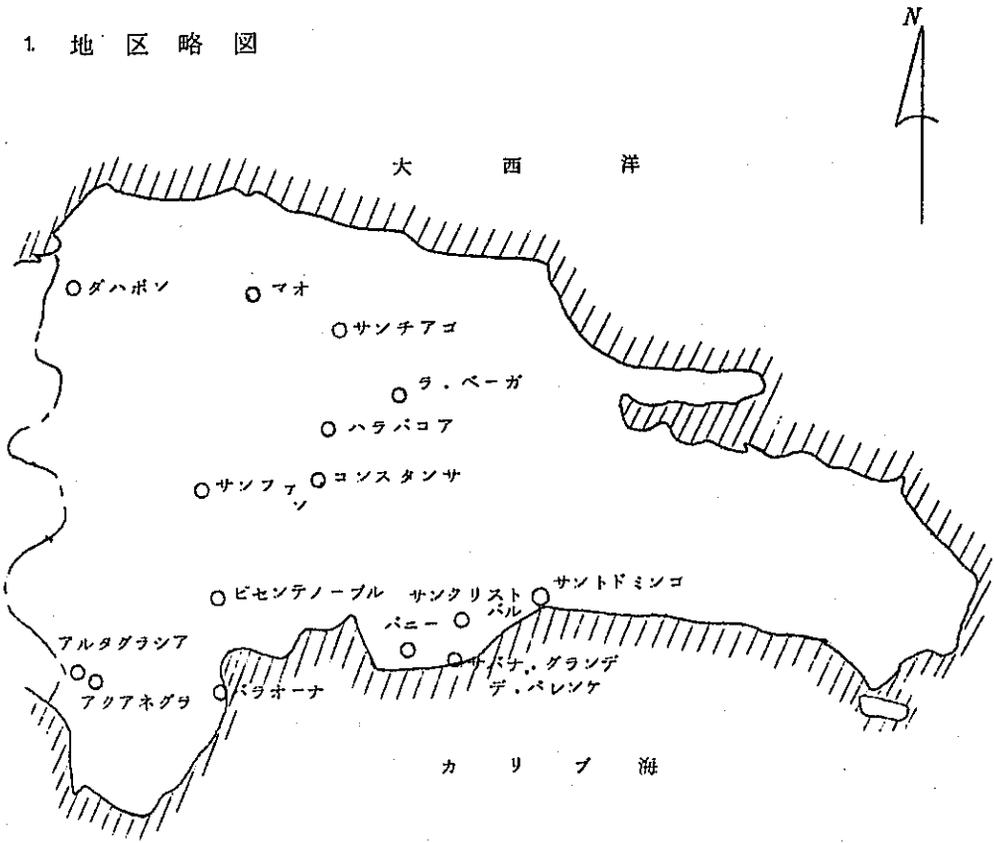
健康診断に来訪したものの16名の他は胃腸病，視力障害，心臓病，妊婦診断，腰痛，脱腸，整形外科相談，寄生虫病相談，肩こり，開腹手術後その他最近大手術を受けた者が2～3人，手術後検診にアスンシオン迄出て行くのが大変だからと診療に来た者等があった。

特にこの地区に多い特有な病気にも遭遇しなかったが，一般に食生活上蛋白質の不足がこの移住地も目立っていた。精薄児をつれて来た母親もあったし，レントゲン検査を要するものも数人あった。大手術には，治療代その他で30,000 ガラニーから80,000 ガラニー，尿一般種々検査だけで2,000 ガラニー，一般診察料300ガラニーを出費している現状であり，この料金はこの国では医療費としては当然の値段であるが，移住者の収入に比し可なりの負担になっているようである。それでもこの地区は無医村に比し幸福な方であると言えよう。

XII サントドミンゴ支部管内ドミニカ中西部地区

1. 地 区 略 図
2. 巡 回 日 程 表
3. 疾 病 統 計
 受 診 者 数
 疾 病 件 数
4. 診 療 概 況

1. 地区略図



2. 巡回日程表

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
12. 20	医師 一戸信一		サントドミンゴ	
21	助手 〃 マス		〃	
1. 21			〃	
2. 9			〃	
2. 3	医師 一戸信一	サントドミンゴ	ハラバコア	ハラバコア
4	助手 〃 マス	ハラバコア		サントドミンゴ
2. 6	医師 一戸信一	サントドミンゴ		ダハボン

月日	巡回者名	出発地	診療地	宿泊地
2. 7	助手 一戸マス	—	ダハボン	ダハボン
8		ダハボン	マ オ	サンティアゴ
9		サンティアゴ	—	サントドミンゴ
2. 13	医師 一戸信一	サントドミンゴ	—	サバナ・デ・ ラ・マール
14		サバナ・デ・ ラ・マール	サバナ・デ・ ラ・マール	サントドミンゴ
2. 26	医師 一戸信一	サントドミンゴ	ラ・ベータ	ラ・ベータ
27	助手 〃マス	ラ・ベータ	—	サントドミンゴ
3. 2	医師 一戸信一	サントドミンゴ	—	コンスタンサ
3	助手 〃マス	—	コンスタンサ	〃
4		コンスタンサ	—	サントドミンゴ
3. 9	医師 一戸信一	サントドミンゴ	サンクリストバル	
			サバナグランデ	
			デ・バレンケ	
			バニ	
			サンファン	サンファン
10		サンファン	ビセンチノーブル	
			バラオーナ	ベデルナシス
3. 11		ベデルナレス	アルタグラシア	
			アグア・ネグラ	バラオーナ
12		バラオーナ		サントドミンゴ

3. 疾病統計

<受診者数>

男	26 人
女	43 人
計	69 人

大人	45 人
子供	24 人
計	69 人

<疾病件数>

疾 病	件 数	疾 病	件 数
胃アトニー	2	子宮附属器炎	1
カタル性肺炎	1	女子更年期症	1
高血圧症	4	女子経閉期症	1
気管支炎	8	皮膚炎	1
腎臓炎	1	幼児湿疹	1
口肉炎	1	トラコーマ	1
乳児消化不良	1	老人性白内障	1
ホルモン失調症	1	計	33
扁桃腺炎	1		
気管支喘息	1		
坐骨神経痛	1	妊婦診断	4
左不全麻痺	1		
慢性便秘	1	合計	37
胃神経症	1		
急性腸炎	1		

4. 診 療 概 況

ドミニカ移住者は移住以来約 13 有余年を経過し、移住当時は気候風土の変化、環境の相違および過労働などにより多くの人々が風土病のマラリヤ、肝臓疾患、熱帯性皮膚炎等に冒されたが、その後は当地の風習にも慣れて健康状態は概ね良好となっている。

巡回の結果においても現在入院加療を必要とする疾病は見出されなかった。

なお、疾患者にはそれぞれ処置を指示した。

7
LIBI